

島原翔南高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：中山議員、大久保議員 学生：島原翔南高校2年生3名、1年生2名

○発表テーマ：離島・半島における交通の利便性向上

○意見交換会要旨

(中山議員)

具体的に調査して提案されていた。スタイルとしてわかりやすかった。

調査にどのくらい時間が掛かったのか、また、翔南高校の生徒のうち何人くらいがバスを使っているのか。

(大久保議員)

会社まで出向いての調査や人口推移など地域の基礎知識から調査を始めているのが素晴らしい。

平戸でも、路線の縮減などの問題があるが、ドライバー確保の点から探求することでもっと見えてくるものがあるかもしれない。

(生徒)

11月くらいから計画して調査した。

利用者の意見に耳を傾けることが大事だと思った。翔南高校の中でどれくらいバス利用者がいるかは帰ってから調べてみたい。

(中山議員)

どれくらいの頻度でミーティングを行ったのか。

(先生)

はじめは2人で取り組み始めた。それが10月くらい。その後3人が加わることとなり、発表までに10回くらい行った。

(中山議員)

今後、全校生徒の前で発表などするのか。取材に掛かった経費は自前か。

(先生)

それぞれの総合的な探求の時間で生かしていくことになると思う。取材に掛かったバス代は学校の教育費から出してもらった。

(生徒)

議員お二人から見た南島原市の印象は？

(中山議員)

若いころは友人がいたし、前知事の地元でもある。身近な感じはするが、「遠い」という印象がある。

(大久保議員)

平戸と南島原市では、昔は4時間掛かると言われていた。離島を除けば、長崎県

内で最も遠いのではないか。イメージとしては、農作物が豊富で盛んなイメージ。
(中山議員)

島鉄にアポを取ってみて感じたことがあるか。親以外の大人と接することは貴重な体験であったと思うけれど何か準備はしていたのか。

(生徒)

質問内容などは事前に考えて取材を行いました。

(先生)

補足すると、質問項目が多かったこともあり、文書での回答もあった。

(中山議員)

できれば、直接会って回答してもらえれば、回答の前後にあるところから次に繋がったりする。そういう経験を積むのもよいことだと思う。

(大久保議員)

今回、島鉄バスを調べたので、島鉄の鉄道を探求するのもよいかもしれない。松浦鉄道は沿線自治体から補助金をもらうなどしているし、地域交通の課題が見えてくるかもしれない。

(生徒)

高校生のうちにやっておいたほうがよいことがあるか。

(中山議員)

自分が何をしたいのかを探求して欲しい。

少人数学級の良さをどう感じるか。先生との距離感はどうか。

(生徒)

仲の良い先生もいるし、フレンドリーに話している生徒もいる。専門の授業でさらにクラスが分かされると仲間との意見交換ができなくなるのは残念。

(大久保議員)

まずは高校生活を楽しんで欲しい、中学生の時期はコロナで制限があったと思うので、地元での楽しかった思い出を持って進学や就職などに進み、故郷に対して何ができるか考えられるようになってもらえればと思う。